

<本論文の構成と既発表論文との関係>

序 章

安 平鎬(2000c)「「(アル/)イル」と「テイル」をめぐって一日韓対照という観点から一」『国語学会平成12年春季大会要旨集』174-181.

第一章

新規執筆

第二章

安 平鎬(2000b)「「ある/いる」と「iss-ta(있다)」一日韓対照の観点から一」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究報告書』平成11年度, 681-698.

第三章

安 平鎬(2000d)「結果相と空間表現との共起関係一日韓対照を中心に一」『空間表現と文法』215-247. くろしお出版

第四章

安 平鎬(1999a)「現代韓国語の「ㄴ(-ess-)」形による「現在の状態」を表す場合の条件をめぐって」『空間表現の文法化に関する総合的研究』平成7-10年度、文部省科学研究費補助金・基盤研究(A)(2)研究成果報告書(筑波大学), 23-41.

安 平鎬(印刷中)「韓国語の「タ」:「hayss-ta(했다)」をめぐって」『タの言語学』ひつじ書房

第五章

安 平鎬(2000d)「結果相と空間表現との共起関係—日韓対照を中心に—」『空間表現と文法』215-247. くろしお出版

第六章

安 平鎬・福嶋健伸(2000)「中世末期日本語と現代韓国語のアスペクト体系について—存在型アスペクト形式の文法化—」『平成 12 年度日本言語学会秋季大会予告集』172-177.

安 平鎬・福嶋健伸(2001)「中世末期日本語と現代韓国語のアスペクト体系—アスペクト形式の分布の偏りについて—」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究報告書』平成 12 年度, pp. 407-436.

結 章

新規執筆